

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1671号 2003年02月10日(月)

《 full schedule of geopolitical events 》

今週は、国際政治スケジュールに金融市場が目耳を奪われる一週間になりそうです。あまりにも重い予定が詰まっている。びっしりである。

過ぎた週末(9日まで)	ブリクス国連査察委員会委員長、エルバラダイ IAEA 事務局長のイラク訪問(終了)
2月09日(月)	プーチン・ロシア大統領のドイツ訪問(終了)
2月10日(火)	プーチン・ロシア大統領のフランス訪問 ハワード・オーストラリア大統領が米国訪問(ブッシュと会談) 日米次官級戦略対話(ワシントン、北朝鮮問題で)
2月11日(火)	北朝鮮・韓国第四回経済協力推進委員会(14日まで)
2月12日(水)	<u>IAEAの北朝鮮問題を巡る緊急理事会(国連安保理付託を討議)</u>
2月13日(木)	イスラム教メッカ巡礼明け
2月14日(金)	安保理への査察委員会のイラクを巡る査察報告書提出 EU外相会談(14日か16日)
今週の週末	アラブ緊急外相会議 スイスがイラク攻撃をめぐる国際会議を計画

こうして見ると、この一週間がいかにイラクと緊迫の度を加える北朝鮮問題を巡るイベント続きであることが分かる。12日のIAEA緊急理事会は恐らく安保理への北朝鮮問題の付託を決める。これを受けて、イラクに加えて北朝鮮問題での安保理討議が始まる。当初は北朝鮮非難のみが行われ、制裁措置は導入されないだろう。しかし、北朝鮮情勢もこれによって大きく動き出すことになる。

ラムズフェルド米国防長官は週末にドイツのミュンヘンで開かれた会議で、「北朝鮮が核燃料再処理施設を再稼働させれば、5月か6月ごろまでに新たに核兵器6~8発分の核物質を手に入れる可能性がある」と述べた。アメリカ政府の北朝鮮に対する姿勢は、「待ち」から「力と決意」(米政府高官)の方針に転換しつつある。アメリカにとっては、二正面作戦というわけだ。その証拠にアメリカは、朝鮮半島周辺で偵察活動を強める軍備補

強を行っており、B1、B52 など長距離爆撃機 2 4 機のグアム配備の準備態勢を整えていると言われる。

今週は、イラク情勢を展望する。端的に言うと、アメリカは 1 4 日から数週間以内にイラク攻撃の決意をほぼ固めた状態にある、というのが実情だろう。ブッシュ大統領は先週土曜日のラジオ演説（恒例）で今までになく強い調子で国連に「決意」を求めた。要するに、「game is over」（ゲームは終わった）というのが、ブッシュの認識だ。

ブッシュ大統領はラジオ演説で、国連の決議などを通じた要求が「独裁者によって無視・嘲笑されている（are defied and mocked by a dictator）」とし、自らを守り、イラクを武装解除するため、「増えつつある支援・同盟国家とともに」（along with a growing coalition of nations）いかなる措置も取ると強調している。

これに対して、現時点では「ドイツとフランスが、米国による対イラク戦争を回避するため、国連平和維持軍をイラクへ長期派遣し、武装解除を強力に進める」という案を持ち出し、これにはロシアも同調すると伝えられている。フランスとロシアは、実体がそうであったとしても、最後の最後まで「アメリカ支配の世界」を認めたくない気持ちがあるのだろう。しかし、実際に戦えばアメリカが勝利するのは明確であり、その時に最後まで反対して戦勝国の仲間入りが出来なければ、ポスト・フセインの中東秩序構築に参加できなくなるのも嫌だ、という気持ちが強いに違いない。

つまり、フランスとロシアは注意深く「最後に最良の国益とは何か」をカウントしながらの対応を続けていると言える。フランス、ロシアとドイツとの違いはここにある。フランスとロシアは、最後はアメリカに恩を売りたいのではないか。実力的にはアメリカが一頭地抜けているのは明確な今の世界で、フランス、ロシアが置かれた立場は微妙だ。アメリカ中心の世界図式の中で消え入りたくはないから独自色は打ち出す。しかし、負け馬に乗るのも嫌だという。

《 too little too late 》

アメリカが対イラク攻撃意志を固める中でも、この週末には国連監視委員会のブリクス委員長と IAEA のエルバラダイ事務局長がイラク入りして、1 4 日の安保理への報告書提出前の最後の詰めを行った。イラクに国連査察に関する譲歩を求めに入ったもので、偵察衛星 U 2 の上空飛行をイラクに認めさせるだとか、科学者の単独聴取、神経ガスや炭疽（そ）菌を廃棄した証拠の提示などを求めたとされる。

9 日の朝 7 時現在の情報では、二日間に渡るイラク側との話し合いを行ったブリクス委員長とエルバラダイ事務局長はバグダッドで記者会見し、「イラク政府当局者の間には、“心変わり”（change of heart）が見られる」（エルバラダイ事務局長）、「イラクは炭疽菌、化学物質、ミサイルなど未解決の、個々の、緊急度の高い問題に関して、新たな文書を提出した」（ブリクス委員長）と述べている。同事務局長は「私の見方では、安保理は進展が見られる限り査察プロセスの継続を支持するだろう」とも語った。

しかし、アメリカは早くも二人のイラク側との交渉には不満のようで、CNNの日本時間9日午前7時過ぎのサイトには以下の文章が載っている。

「White House dismisses inspectors' optimism
ElBaradei notes 'change of heart' among Iraqi officials

Sunday, February 9, 2003 Posted: 4:25 PM EST (2125 GMT)

BAGHDAD, Iraq (CNN) -- Two days of talks between the chief U.N. weapons inspectors and high-level Iraqi officials gave the inspectors hope that Iraq had finally begun to fully cooperate, but U.S. officials dismissed that hope as too little, too late.

With Hans Blix and Mohamed ElBaradei leaving Baghdad more convinced than ever that the inspections would accomplish Iraq's disarmament peacefully, a Security Council showdown over the next steps appeared unavoidable.

"The ball is very much in Iraq's court," said ElBaradei, adding that he thought he'd seen a "change of heart" among the Iraqis. "If we see quick progress ... then I believe we will be given the time we need to move. As long as we're registering good progress, I think the Security Council in my view will continue to support the inspections process."

But President Bush, speaking at a Republican retreat in West Virginia, said a change of heart was "not good enough."

"The job of the inspectors is not to negotiate with Iraq but to verify whether or not Iraq has weapons of mass destruction," he said.

National security adviser Condoleezza Rice, on CNN's "Late Edition with Wolf Blitzer," called Iraq a "serial abuser" of U.N. resolutions and said the resolution that sent inspectors back to Iraq in November was a last chance.

"The Iraqis have not had three months to deal with this problem," she said. "They've had 12 years."」

つまり、アメリカはイラクが譲歩したとしても「十分ではなく、遅すぎる」という判断であり、仮に14日の安保理でこの問題が討議されれば、「次の措置（査察継続か打ち切り攻撃か）を巡って、安保理は対決必至となるだろう（a Security Council showdown over the next steps appeared unavoidable）」というのである。「イラクには既に12年間という時間を与えてきた」というのが、ライス安全保障問題担当ホワイトハウス補佐官が鮮明にしているアメリカの立場である。

一方、独仏案でもアメリカの姿勢は変わらないだろうか。9日朝現在の報道では、ブーチン大統領のドイツ訪問は終わり、シュレーダー首相と同大統領は共同記者会見を開いている。そこから出てきた言葉は、「あくまでも平和的解決を目指すべきだ」というものである。この二つの国が少なくとも14日までは武力行使に賛成する可能性が低いことを示している。しかし一方で、ブーチン大統領は「むやみにアメリカに敵対するつもりもない」と微妙な発言も行っている。

イラクがブリクス委員長に手渡したとされる文書などに関して、今後安保理の専門家チームの間では検討が行われよう。二人の対イラク評価は、最終的にはそうした検討が行われた後である。独仏の案はまだ安保理に正式に提示もされていない。それが正式に安保理に提示され、またブリクス、エルバラダイ二人の安保理への報告が「前進」を内容とするものになったらアメリカはどうか。

それでも、取り合わない可能性が高いのではないか。独仏以外のヨーロッパはスペインを中心に当初8カ国、それにあとから他の10カ国近くがアメリカ支援を明確にしている。アメリカとしても、引っ込みがたい。ブッシュは週末のラジオ演説で言っている。

「The United States would welcome and support a new resolution making clear that the Security Council stands behind its previous demands. Yet, resolutions mean little without resolve.」

つまり、既に今の国連のちんたらした対応にイライラしているのである。アメリカは1441を含めて「数々の国連決議にイラクが違反した」ことを理由に、現状で攻撃できるという立場。それでも、国連安全保障理事会が従来の要求にしっかり立脚した新たな決議を通すというのなら、それを歓迎し、支持する、と。国連の顔を立てているわけである。しかし、「決意なき決議は意味をなさない」とも言う。そして、ラジオ演説の最後にブッシュはこう述べている。

「And the United States, along with a growing coalition of nations, will take whatever action is necessary to defend ourselves and disarm the Iraqi regime.」

《 alert levels: orange 》

一方でアメリカは、対イラク攻撃に向けた国内準備を着々と進めている。この週末には、「テロ警戒レベル (national terror-alert status)」を黄色からオレンジに一段と引き上げた。これは上から二番目に警戒すべきレベルです。このステータス変更を嫌気して先週末のニューヨークの株価は下落した。

今後の参考のためにアメリカの Alert Levels の骨格を示しておく。

RED: Severe risk of terrorist attacks.

ORANGE: High risk of terrorist attacks.

YELLOW: Elevated condition. Significant risk of terrorist attacks.

BLUE: Guarded condition. General risk of terrorist attack.

GREEN: Low risk of terrorist attacks.

オレンジ (ORANGE) とは具体的に

- 「. Coordinate necessary security efforts with federal, state and local law enforcement agencies or any National Guard or other appropriate armed forces. (必要な安全保障上の努力の調整)
- . Take additional precaution at public events and possibly consider alternative venues or cancellations. (公的行事での警備強化、延期・中止の検討)
- . Prepare to work at an alternate site or with a dispersed work force. (勤務場所変更などの準備)
- . Restrict access to threatened facilities to essential personnel only. (テロ目標とされる施設への立ち入りを必要最小限な人員に限定)」

などとなっている。アシュクロフト米司法長官によれば、狙われそうなのはアパート(日本で言うマンション)やホテルなど "lightly secured targets" (警備度が低い目標) とされる。テロ主体はアルカイダ。

「 "We are not recommending that events be canceled," nor should individuals change their travel, work or recreational plans, Mr. Ashcroft said at an afternoon new conference.

Even so, Homeland Security Secretary Tom Ridge said at the news conference that Americans should "in the days ahead, take some time to prepare for emergencies." As an example, Mr. Ridge suggested that families devise plans for contacting one

another if separated by an emergency. "Terrorist attacks can really take many forms," he said

司法長官とリッジ国土安全保障省長官とでニュアンスが違う。後者は「家族でばらばらになった時に、連絡しあう方法の確保を．．．」と。6日に始まったイスラム教のハッジ（巡礼月のメッカ巡礼）に併せて、またイラク攻撃の接近に伴っての措置で、アメリカの情報・諜報機関全体が集めた情報を糾合し、検討した結果としている

このテロ警戒レベルの引き上げで、7日のニューヨーク株式相場が朝高後に下げたことは既述した。テロ再発への懸念が広がったため、ダウ工業株30種平均は4日の続落で、前日比65ドル07セント安の7864ドル23セントと昨年10月11日以来の安値で終えた。Nasdaq総合株価指数も同19.26ポイント安の1282.47で終了。節目の1300を割り込み、昨年10月17日以来の安値となった。

こうした米株式相場の軟調傾向は今後も続くだろう。戦争かどうかははっきりしないときに株価が基調的な上げに転じるのは難しい。この一週間も市場では警戒感が強いに違いない。

日本の通貨当局の介入報道をきっかけに、ドルは対円では上昇している。今まで対ユーロでも下げ続けてきただけに、対ユーロでも一時の安値からは反発している。依然としてアメリカと欧州の対立構造が鮮明になる中で、資本もどちらにつこうか迷い始めている兆候が伺える。しかし、ドルが持続的に反発する気配にないことも確かである。引き続き神経質な展開となる可能性が強い。今週は若干ドル弱含みか。

geopolitical 以外の今週の予定は以下の通りです。

2月10日(月)	12月国際収支 1月マネーサプライ 1月消費動向調査
2月11日(火・祝)	建国記念日で東京市場は休場
2月12日(水)	12月機械受注 経済財政諮問会議
2月13日(木)	10-12月法人動向調査 日銀政策決定会合(～14日) 米1月小売売上高
2月14日(金)	10-12月GDP速報値 12月鉱工業生産確報値 イラク査察報告期日 米12月企業在庫

米 1 月鉱工業生産、設備稼働率

米 2 月ミシガン大学消費者センチメント指数

こうして並べてみると、やはり地政学的スケジュールに押される。「戦争か平和か」という問題の方がやはり大きなテーマだ。平和であってこそその「市場にインパクトを与える」経済統計だと分かる。なぜなら、お金が「動く、動かない」の一番大きな要因としては、戦争はやはり第一級だからです。お金にとってはまず「安全」、それが確保されて「増殖」です。経済統計は、どちらかという「後者」の要因である。

《 have a nice week 》

暖かい週末でした。といっても、私は日曜日は諏訪に居ましたので、それはそれなりに寒かった。法事があって行ったのですが、実は 5 年ぶりに出来たと全国ニュースになっていた御神渡り（おみわたり）を久しぶりに見たいという気持ちもあった。しかし、法事でそのことを言ったら「ザンネンでした」と。もうとっくに消えてしまったと。しかし、全面結氷とまではいいませんが、諏訪湖のかなりの部分は氷に覆われていました。それさえ久しぶりでした。今年がいかに寒かったかと言うことです。

その代わりといっちはなんですが、明治時代、大正時代、昭和の頃の御神渡りを見ることができました。というのは、遠戚の三村写真館（三村文明堂）が明治 20 年代から昭和まで続いた写真館 3 代の写真展を諏訪市博物館でやっていて、それを見たら諏訪の昔々の写真がいっぱいあって、その中に当然昔の鮮明な御神渡りが写真で残っていたため。

このごろは暖冬ということもあって、数年に一度しかできない。まごまごしていると、今後ずっと出来ないかもしれない、という気持ちでしたが、とけてしまったら仕方がない。また何時になるか分からないこの次を期待しましょう。

上諏訪の駅にあった温泉が姿を消したのは少し前ですが、その後は「足湯」場になっている。まだ入ったことがなかったのですが、足湯なら数分でも直ぐに入れる。で帰りに特急が来るまでに 8 分くらいですかね、入った。なかなか気分が良かったのですが、「電車が来る」と思って出たら、列車の方が 14 分も遅れた。これには唖然。最近では日本の電車も遅れが目立つ。

上諏訪駅で降りたら、皆さんも足で温泉を賞味してやってください。一番線ホームの横にあります。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤（E-mail ycaster@gol.com）が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》